



専門家と市民をつなぐ サイエンスコミュニケーションの実践

キーワード

サイエンスコミュニケーション・サイエンスカフェ・対話の場のデザイン

○取り組んだきっかけ

私の専門はサイエンスコミュニケーションといい、科学の専門家と市民をつなぐ実践を2015年から進めています。サイエンスコミュニケーションの代表的な取り組みとして、サイエンスカフェがあります。サイエンスカフェとはコーヒーを飲みながら、専門家と市民が科学について語り合う場のことです。

○具体的な内容

2020年度～2022年度までの3年間で、合計7回のサイエンスカフェを実践しました。各回のテーマは昆虫食(渡邊崇人さん/徳島大学 大学院創成科学研究科・助教)、雑草学(斉藤真苗さん/尾道自由大学・教授)、伊豆の岩石(谷内元さん/静岡大学 理学部 地球科学科・日本学術振興会特別研究員)、静岡のお茶(衣笠仁さん/株式会社伊藤園中央研究所・所長)、駿河湾の深海生物(渡部裕美さん/国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)超先鋭研究開発部門・准研究主任/図1、図2)、脱水と飲み物(若林素子さん/日本大学 生物資源科学部 食品ビジネス学科・教授)、給食の科学(佐野文美さん/常葉大学 健康プロデュース学部 健康栄養学科・専任講師)についてです。

サイエンスコミュニケーションでは市民の懐に自ら入っていくことがしばしば求められることから、開催場所は街中のカフェやコラボレーションスペースを貸し切って行いました。

○期待される効果

サイエンスカフェを実践することで、当初の目的であるサイエンスコミュニケーションを静岡の地に広めていくことに加え、専門家の研究成果を市民に広く認知させることで、SDGsのゴールである、17-17「さまざまなパートナーシップの経験などをもとにして、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップをすすめる。」に貢献できると考えます。



教員名 村井貴
所属学部・学科 造形学部造形学科
職位 講師

○活動の目的

2020年の着任以降、3年生を対象にした私のゼミでは学生の自主的なプロジェクトを大学が支援するプログラム「とこは未来塾」に「サイエンスカフェ常葉の実践」というテーマで応募し、毎年採択されています。静岡にサイエンスコミュニケーションを広めていくことを目的に学内外の専門家の協力を得ながら学生らと実践しています。



図1 第5回サイエンスカフェ常葉「深海生物ってるカイ? ～深い海から学ぶ多様性～」の様子



図2 ゲストと聞き手の対話に耳を傾ける静岡市民

連携先
国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC)
株式会社伊藤園中央研究所など多数